

松下幸之助記念志財団 研究助成
研究報告

(MS Word)

【氏名】加藤 智裕

【所属】(助成決定時) 一橋大学大学院

【研究題目】ケネディ、ジョンソン政権期のインド・パキスタン政策とインド洋政策の連関

【研究の目的】(400字程度)

本研究では、冷戦期アメリカ、特にケネディ (John F. Kennedy) 政権とジョンソン (Lyndon B. Johnson) 政権期の、対インド・パキスタン (以下、印パとも記す) 政策とインド洋政策の連関、に焦点を当てる。本研究の目的は大きく次の3点である。第一に、両政権の印パ政策とインド洋政策の連関を調査・研究することで、当時のアメリカはソ連と中国との対立・競争の中で、インドとパキスタンにどのような重要性を見出し、両国が抱えている地域内対立、国境紛争に対してどのような利害認識のもと、政策を立案していたのかを明らかにする。第二に、インド洋政策という分析視角を加えることで、アメリカは印パが抱える地域紛争への対応及びインド亜大陸における中ソ対立の固定化を企図し、インド洋に軍事プレゼンスを構築しようとしていたことを明らかにする。第三に、アメリカと同盟国であり印パの旧宗主国であるイギリスがアメリカの政策に与えた影響についても調査・研究し、印パ政策における米英関係の協調と対立の側面にも光を照射する。

【研究の内容・方法】(800字程度)

研究の方法については、政府の公文書、外交文書といった未公開資料や公開資料を収集、分析する外交史の研究手法を採用した。

研究については以下のように実行した。

(1)2022年6月を目処：これまでに米ボストンのケネディ大統領図書館、米オースティンのジョンソン大統領図書館にて収集した資料、及び米国国務省刊行の Foreign Relations of the United States の South Asia, Soviet Union, China, National Security Policy などの巻 (ケネディ、ジョンソン政権) の分析を進めた。またインド側の資料として、Jawaharlal Nehru Memorial Fund 刊行の *Selected Works of Jawaharlal Nehru* シリーズの分析も行った。

(2)2022年7月(3週間程度)：イギリスの国立公文書館を訪問し、外務省文書 (FO: Records created and inherited by the Foreign Office) を中心にインド・パキスタン政策関連、インド洋政策をめぐる米英交渉の資料の収集・分析を実施した。

(3)2022年10月：日本国際政治学会にて、「ケネディ、ジョンソン政権期のインド・パキスタン政策：インド洋政策との連関、1962-66」というタイトルで報告を行った。

(4)2023年9月：上記学会報告を踏まえ、さらなる調査・研究が必要な論点を整理した上で、アメリカの国立公文書館 (National Archives II) を訪問し、主に国務省 (RG59) と国防総省 (RG330) の資料にアクセスした。1960年代から70年代のアメリカのインド洋政策、特にディエゴガルシアにおける軍事施設をめぐる議論、についての資料収集を10日間程度かけて実施した。統合参謀本部の資料にもアクセスを試みたが、1960年代は機密解除されていないものが多く、今回は閲覧することができなかった。国防総省のファイルも同様にまだ解除になっていないファイルが多く存在した。

【結論・考察】（４００字程度）

助成金を活用させていただいた 2023 年 9 月のアメリカの国立公文書館での資料調査の結果、事前の公刊文書やイギリスでの資料調査を通じて発見した課題に対処するための資料調査を実施することができた。ケネディ、ジョンソン両政権の資料については、インド洋政策をめぐるより詳細な政権内での議論を確認することができ、【研究の目的】に記載した 3 点について十分に分析でき、かつ、自説を実証できる資料を収集し、博士論文の完成の目処をつけることができた。

アメリカでの資料調査では博士論文提出後の研究活動及び書籍化を見据え、ニクソン政権のインド・パキスタン政策及びインド洋政策についての資料の収集も行うことができた。ニクソン政権の印パ政策はインド洋政策のみではなく、中ソ対立や米中和解も関連したトピックとして論じる必要があり、博士論文提出後はニクソン政権に焦点を当てながら研究活動を継続し、書籍の出版を目指すこととしたい。